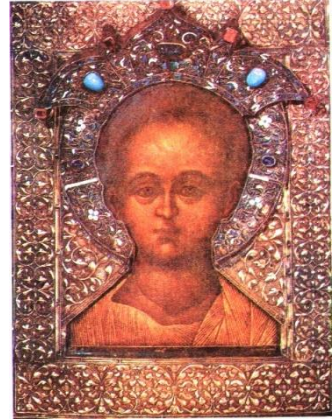


インマヌエル 知っておきたいキリスト教のことば (20)

神ともにいまして 行く道を守り あめのみ糧もて 力を与えませ
また会う日まで また会う日まで 神の守り 汝が身を離れざれ

これは、聖歌 522 番の歌詞です。讃美歌 (1954 年版) にも同じ歌 (405 番) が収められています。(讃美歌 21 では少し歌詞が変わっています)。

あくまでも個人的な意見ですが、日本の多くの宗教では、普通の生活の中では神さまとはできれば関わりたくないと考えているように思います。「さわらぬ神に祟りなし」という言葉があります。またお祭りの時にはお神輿などを担ぎ出しますが、祭りが終われば奥の間に戻ってもらいます。そして願い事があるときだけ、鐘を鳴らして近くに来ていただくのです。



しかしキリスト教の場合には、「神さまが共にいる」ということが、とても大事な考え方になっています。「インマヌエル」という言葉は、ヘブライ語です。「インマヌ」が「わたしたちと共にいる」、そして「エル」は神さまという意味です。ですから「インマヌエル」とは、「神さまはわたしたちと共にいる」ということを意味しています。

この語は、旧約聖書のイザヤ書 7 章 10～17 節にある「メシア預言」の中に出てきます。そこには「インマヌエル」という子どもが誕生する予告が書かれています。そしてマタイ福音書には、イエス様こそ、その預言された方だということが示されているのです (マタイ 1 章 23 節)。

イエス様は今を生きるわたしたちにも約束してください。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28 章 20 節) と。わたしたちはこの約束を信じ、いつも共に歩んでくださる神さまを感じるのです。「神さまがともにおられます」という言葉はわたしたちにとって、とても喜ばしいメッセージなのです。

次回は「馬小屋」です。お楽しみに。